

佳作

水えいが教えてくれたこと

東京都 足立区立弥生小学校二年 島田 茉歩

わたしは、およぐことが大好きです。

四さいでスイミングに通いはじめてから、今では、大きな大会に出られるようになりました。

れんしゅうは、毎日、きついけれど、大会でベストが出たり、みんながおうえんしてくれることがうれしくて、がんばれます。

この前、ねる前にふっと、「水えい」について、考えてみました。

大きな大会に出ることも、ベストが出ることも、うれしいけれど、水えいは、わたしにたくさんのお話を教えてくれると思います。

そして、一ばんは、自分にまけないことを教えてくれていると思えました。

一ばんになったり、ライバルにかつことはうれしいけれど、「自分にまけないこと」が一ばんたいせ

つだと思えるようになりました。

わたしが四さいの時、とても大好きだったおじいちゃんが、天国に行きました。

おじいちゃんは、わたしが生まれた時から、びょうきをしていて、ベッドの上ですごしていたけれど、わたしを見て、いつもニコニコしてくれて、やさしかったことをおぼえています。

だから今、わたしはいつもれんしゅうや大会に行くときにはかならず、お空にむかって「おじいちゃん、行ってくるね」と、心の中で言っている、出かれます。ちよっぴりはずかしいから、この話は、お母さんには、ないしよです。

おじいちゃんは、天国からずっと見ていてくれます。わたしにはわかります。おじいちゃん、これからもずっと、見まもっていてね。

そして、わたしにいつも、がんばることのたいせつさを教えてくれる、お母さん。わたしにとって、とてもとてもたいせつな人です。このお母さんだから、今のわたしがいると、自しんをもって言えます。

今、オリンピックをまい日、テレビで見ているけれど、わたしもいつか、オリンピックに出て、金メダ

ルをとって、お母さんの首にかけてあげたいです。

それが、今の私のゆめです。

そのゆめを、いつか、かなえるために、今日も明日も、そしてこれからもがんばります。

わたしの心のおまもりの、天国のおじいちゃんといっしょに。